

総合的な学習の時間① 問いが目標に変わる時

かつて、私が担任をした中3A組は、驚きの連続だった。ドッジボールをしても、声が出ない。外野の生徒がボールから逃げ、体育館にはボールの音だけが響いている。「こ

界の子ども事情」に決まった。ストリートチルドレン、少年院、少年兵の三つの班に分かれ、近隣の少女院にインタビュールに行くなどしながら、調査を行った。

まだコミュニケーションが上手に取れないクラスなりに精いっぱいの展示を行った。

り始めた。

次に行われるミュージックフェスティバルに向けて、クラスのメンバーは、自分ができることを率先して行い、熱心に練習を続けた。A組の受賞が発表された時は、笑顔で受賞を喜び合った。そして、

文化祭委員は、「どうしたらクラスをまとめることができるのだろうか」と自らに問い掛ける。「世界の子どもはどのような困難を抱えているのか」という問いを立てることができていたら、と担任として悩むこともあった。

中学最後に行われたクラス対

しかし、これらの経験が、A組全員が問いを持ち始めることにつながる。「どうしたら、私たちはまとめることができるのだ

化祭展示発表

表に向けた話し合いを始めた時

日常の違和感、改善策を自問

「どうか」
自信がない
いからボー

も、誰も発言しない。困った文化祭委員が私を見るので、「グループで話してみたら」とアドバイスした。文化祭委員は、グループに聞いて回った意見を黒板にまとめた。文化祭展示発表のテーマは「世

展示発表を見に来た教員からは、「内容がつかっていない」という評価も受けた。だから、中学展示部門で「銅賞A組」と発表された時、誰もが驚いた表情をした。しかし、この受賞から、クラスが変わ

抗ドッジボール大会では、どうしたら優勝できるのかをクラス全員で話し合った。外野の生徒は必死にボールを取りに行き、グラウンドではクラスの生徒の声が響き渡った。その結果、A組は優勝した。

ルから逃げ、声が出せなかったのだ。「なぜ、できないの？」という問いは、相手への批判や攻撃になる。しかし、その問いを「どうしたらできるようになるのだろうか」と自分に問い掛けると、それは学びや探究になる。生徒は周りから認められ、問いが目標に変わる時、思わぬ力を発揮する。学校生活には、問いがあ

吉崎 亜由美

東京都 私立桐朋女子
中・高等学校教諭



日常感じる違和感からは、皆さんの問いが生まれる。担任は、「なぜ、声が出ないのだろうか」「どうしたら声が出るのだろうか」と問い続け、

ふれている。